

会 議 録

会議の名称	第1回千里中央地区活性化ビジョン策定委員会		
開催日時	平成25年(2013年)7月18日(木)10時00分～12時15分		
開催場所	豊中市役所 議会棟 2階大会議室	公開の可否	可
事務局	豊中市都市計画推進部 千里ニュータウン再生推進課	傍聴者数	11人
出席者	委員	加藤(晃)委員、加藤(恵)委員、佐藤(友)委員、澤木委員、 稲月委員、大西委員、菊池委員、澤田委員、山城委員、八本委員、 佐藤(哲)委員、仲委員、松原委員、原田委員、山本委員、 越智委員、川上委員、森委員	
	事務局	半田部長、野村理事、柿本次長、森次長、上野山課長、糸井主幹、 武川課長補佐、後藤主事、内田主事、坪井技術職員	
	その他	牧野、森田	
議題	1. 委員長の選出について 2. 委員長の職務を代理する者の指名について 3. スケジュールについて 4. 報告 ・現状と課題について ・今後の方向性について 5. その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

第1回千里中央地区活性化ビジョン策定委員会 議事要旨

日 時 平成25年7月18日(木) 10時00分～12時15分

場 所 市役所 議会棟 2階大会議室

出席委員 学識経験者：加藤(晃)、加藤(恵)、佐藤(友)、澤木

事業者：稲月、大西、菊池、澤田、山城、八本

交通事業者：佐藤(哲)、仲、松原

市民：原田、山本

行政機関：越智、川上、森 (敬称略)

事務局 半田、野村、柿本、上野山、武川

森、糸井、後藤、内田、坪井

その他 牧野、森田

傍 聴 11名

会議録 下記のとおり

●開会

市長挨拶、会議成立の確認、公開の確認、本日の案件及び資料確認、委員会の発足の説明、委員及び事務局職員紹介

●案件(1) 委員長の選出について

委員長は加藤(晃)委員に決定

委員長挨拶

千里中央地区の再整備では、コンペなどを経て、上へ上へとビルが建ち、かなり活性化したのではないかと。御堂筋線沿線を見ると、グランフロントやハルカスができ、御堂筋の通りについても50m規制をはずし、商店で賑わいをつくろうとしており、御堂筋線沿線で地区間競争が激しくなりつつある。萱野の方まで鉄道が延びる話もあり、千里中央はさらに頑張らないといけないという様相だ。北大阪の中心ということで、皆様のお知恵を出していただいて、ひと味違った成果を期待したい。

●案件(2) 委員長の職務を代理する者の指名について

委員長職務代理者は加藤(恵)委員に決定

委員長代理挨拶

千里中央地区は、勤め先の神戸から見ると、まことにうらやましい街だ。委員長は、御堂筋線沿線の地区として位置づけられたが、より広域的な観点の位置づけから、ここの役割を考えていく必要があると考えている。

●案件（３）スケジュールについて

【資料４】策定スケジュールについて

資料に基づき事務局から説明

●案件（４）報告

【資料５】報告資料目次

【資料６】Ⅰ千里中央地区の現状と課題（平成24年度基礎調査より）

【資料７】Ⅱ千里中央地区の今後の方向性について

【資料８】千里中央地区位置図

資料に基づき事務局から説明

委員

- ・西町エリアの業務ビルの動きが気になっている。それぞれの企業が、業務の中身をどう変えているのか、調査や検討はなされているのか。

事務局

- ・昨年度の取り組みの中では細かい動向の調査は行っていないが、西町地権者部会の中で、元々はデータセンターや自社ビルとして使用していたが、現在はテナント貸しなども増え、様々な事業者が入っている状況と聞いている。

委員長

- ・昨年度調査の本編は皆様の手元に届いているのか。

事務局

- ・概要版を送付している。各部会の中で基礎調査の資料を作成したのではなく、事務局で作成し、事業者部会・地権者部会の中でお示しし、地区で感じている課題などの意見を聞くという形で、すりあわせをしている。

委員

- ・「千里中央地区」と「千里中央センター地区」は同じものと考えているのか。今回の資料では、商業施設的なセンターの話だけになっているが、もう少し広い範囲のいろいろな小さな商業なども含めて、現在の状態があると思う。その関係をうまくするか、住民参加などをうまく巻き込んでいかないと、商業施設だけの開発計画では活性化できないのではないかと。コラボのような施設ができて、センター機能がかなり充実したが、どのようにして地区の人を巻き込んでいくのか。
- ・センター地区よりもう少し広い範囲でこの地区を位置づけていくべきではないか。都市間に競合

があつて、外から人がたくさん来ることは考えられない状況だ。したがって、この地域の人たちにとって魅力的な場所にしていくことを考える必要がある。今日の説明の中にそういう話があまりなかった。センターと千里中央地区全体の役割分担、全体としてどのような生活を提案していくのか、その中で千里のセンターの役割がはっきり出てくるという構造なのかと想着ていた。これについてどのように考えているのか。

委員長

- ・ 土地的・空間的には黒の線で囲まれたところだが、それだけで大丈夫かというご意見か。空間的（物理的）中心と社会的中心がある。この場合は住宅地なので、社会的中心は人の動き・活動などのいわゆるソフトと言われる部分になるが、それを含めた概念でセンターを捉えると、もう少し広くなるのではというご指摘だと思う。

事務局

- ・ 昨年度の取り組みでは、黒の線で囲っている部分の地権者・事業者の意向把握からはじめて、見えてきた課題について今日説明している。どうしても事業者・地権者の意向を強く反映した中身になっている。策定スケジュールの中でふれているが、8月頃に市民を対象にしたワークショップや説明会などを開催し、骨子や素案に対する一般の方々の意見を反映することを考えている。

委員長

- ・ 「センター」と「中央地区」の言葉の関係は？

事務局

- ・ 今回は、黒の線で囲っている部分を対象にして活性化ビジョンを策定する。このエリアは、豊中市域のニュータウンのセンター機能を担う部分と考えている。

委員

- ・ 一般的には、千里中央地区というと、もう少し広いエリアと考える人が多いのではないか。

事務局

- ・ 地域の人口が、減少から増加に転じているという話があつたが、周辺の公的賃貸住宅や民間分譲マンションがこの数年建て替えられて、若い方が住むようになっていく。これらの方々のご意向も当然まちづくりに反映させていく必要があると考えている。

委員長

- ・ 厳密に言うと、「豊中市の」千里中央地区だ。吹田市を含む千里ニュータウンの中央地区という概念とは少し違うということは断っておいた方がいい。というのは、将来的に、活性化ビジョンの方向性の中で、いろんな都市計画手段が出てくるが、その手段を行使できる責任主体として豊中市がある。このことがまず限定的にある。物理的な千里中央地区の対象エリアを確定して、いろんな支援をするので、どうしても空間的な前提になってしまう。一方で、もう少し広いエリアが対象になるのではないかとこのところでは、黒い線の外側に近隣商業などの商業もあるが、そういうものを含めた活性化ビジョンにはならないのかという話だと思うが。

事務局

- ・ 今回の活性化ビジョンでは、黒の線で囲ったエリアを対象とする。ただし、このエリアを利用す

る周辺の方々意向もビジョンに反映させていく。そういう関係性だと思う。

委員

- ・千里中央地区を考えると、地域間競争に打ち勝つというより、連携を図って、win・winの関係に持っていくという発想で考えていくことがあり得るのではないかと。空港や新大阪駅に近く、周辺には新しいプロジェクトがたくさんある。また、人口についても、豊中・吹田市域は、千里ニュータウンの建替え需要などによりまだまだ増えていく可能性がある。このような全体の状況を踏まえ、連携を図ることで、エリア全体のブランド価値を高めることが考えられないか。
- ・エリアを通して連携を図るのであれば、吹田市や箕面市を含めたエリア、若しくは沿線に広げて考えていく必要がある。現在、都市再生緊急整備地域は千里中央地区だけが位置づけられているが、これを左右・上下に広げていくなど、連携を図ってwin・winの関係に持っていくことが考えられる。交通の話もそこに鍵があるかもしれない。

事務局

- ・地区の立地や特徴を活かしながら、周辺のそれぞれのまちづくりと連携するのは当然必要だと考えている。

委員長

- ・win・winの関係では、補完的關係が重要になる。お互いにないものを発揮し合おうという、そういう意味でのまちの将来像だ。
- ・前回の再整備ビジョンのコンペの際に、当選案を決めた理由は、千里中央地区は大規模な住宅地のセンターとしての機能を持った場所と位置づけられていたため、それに相応しい案が選ばれた。梅田のグランフロントなど、都心のものとは違う、住宅地のセンターということで決めた経緯がある。さらに活性化するとき、次なる千里中央地区のまちの将来像は、どのように考えるのか。ここで示された方向性の中で何か考えているのか。広域の中の位置づけはどのように考えているのか。

事務局

- ・最後のページにある「まちづくりの方向性」について議論いただきたい。現状・課題を考える中で、方向性の1～4までは具体的なイメージを持ち、事務局案として示している。5つ目の「周辺環境の変化への柔軟な対応」の部分を具体的にどうするのか、悩ましいところだ。万博跡地の開発についても、商業者の方は非常に懸念されている。役割分担として、どういう形が考えられるのか、ぜひ議論いただきたい。

委員

- ・万博跡地や北急の延伸等は、広域相互に影響するものだ。ただし、相乗効果を高めることにより、北大阪全体の価値が上がっていくことになるので、大阪府としてもその調整役を果たしていきたい。特に、交通体系や容積の話、都市再生緊急整備地域の考え方など。梅田ではJRや阪神・阪急が連携し、大きなエリアマップをつくって、相互に広報・PR活動をやっている。たとえば、

千里中央で個性のあるものをきちっと作り上げ、万博にできる施設の中でも相互に広報・PRしていく。交通体系の中で相互に利用しやすい環境をつくる。そういったところで、大阪府としての役割を果たしていきたい。

委員

- 北大阪地域や千里中央地区にとって、広域の視点は非常に重要。方向性の最後のところについて、ビジョンは抽象的な方向性を出すものだと思うが、「柔軟な対応」で終わっているのではちょっと弱い。緻密に将来を見渡して、10年・20年というスパンでどういう対応をするのか考えておかないと、何かが起きてからでは遅いと思う。アウトレットというような今までなかった要素が入ってくるときには、どういうところから、どんな人が、どういう交通手段で来て、どれくらいお金を落とすのか、というようなデータについて、既存のものを参考にするなどして分析することが必要。
- もうひとつの大きな問題である北大阪急行の延伸に関しては、現在は千里中央を中心にしてバスのネットワークがあるが、かなりの部分を占める箕面路線が萱野にシフトされ、箕面からの人の流れが変わることが考えられる。そういういろんな前提条件が変わるので、どういう様相が何年後に北大阪で起きてくるのか考えながら、その中で千里中央地区というのはどういう個性を發揮して、他とも連携しながら、北大阪地域の全体のアップにつなげていくのか。少し広い視点で、長期のスパンで考えていく必要がある。
- 千里中央は千里ニュータウンのセンターという位置づけだけではなく、北大阪の都心的な機能を持っている。周辺のいろんなところで商業施設ができてくるが、それは一定の範囲を商圈としたサービスが提供されるものなので、千里中央ではもう少し高度な部分、梅田、難波、天王寺に対応するような部分もあったらいいのではないかと。北大阪地域は、住んでいる方の所得も知的レベルも比較的高く、既に地域にブランド価値もあるので、そういったものをより伸ばす方向の都市機能を目指してほしい。
- 一方で、千里中央地区は、千里ニュータウンや周辺の居住者のための生活中心とも考えられる。昨年度、研究室で、新しく千里ニュータウンに転入してこられた方が千里ニュータウンをどう見ているのか、どんな生活をしているのかを調査するため、2007年以降にできた新築分譲マンションの居住者の方々から約7百票を集めて分析した。全般にファミリー層が多く、30、40歳代が帰ってきて、子育てをはじめていることがわかった。まちびらき当初も、近隣住区理論に基づいて作られた、歩いて暮らせる生活圏中で、30、40歳代が子育てするには不便がないまちだったと思う。しかし、昭和40年代の子育てと今の子育てでは、大きく変わってきており、新しく入ってきている子育て層の方々の生活ニーズにマッチする商業機能や生活サービス機能が、千里中央地区やニュータウンの中では提供しきれていないのではないかと。
- 例えば、子連れで食事ができるレストランなどはどうか。西町や東町の方々は千里中央に歩いていけるが、他のところから来られている方だと、自動車で買い物に行ったついでにどこかで食事しようというときに、自動車で寄れる業態のお店があるか。現代風に見直そうとすると、かつて

子育てに一番適していたはずの千里ニュータウンも、変わっていかないといけない。それから、高齢化対策についての機能も当然ながら重視する必要がある。

- ・こういった生活者目線で、西町・東町だけではなくて、もう少し広げて、新しい居住者のニーズに対応することも必要だろう。これからも新しい居住者は増えていくので、ニーズも変わっていくが、そういった視点も合わせて持ちながら、都心的な機能を伸ばす部分と地域の生活者の新しいニーズに応じていく部分、この両面の機能を考える必要がある。

委員

- ・西町エリアについては、これまであまり議論されてこなかったが、千里中央地区を考える上では当然ながら重要な場所だ。企業が所有しているので、行政サイドから手を出しにくい場所だとは思いますが、大変重要な場所だ。大きく変わっていきそうで、すでにそういう萌芽もあり、事業主の方、企業の方と情報共有しながら、方向性を考えていくところにきている。変わり方によっては、東町エリアの商業の展開にも大きく関わってくるし、どういう人が住むのかといったことにも関わってくる。
- ・他の郊外の事業地はいろんなタイプのところがあるが、大きく変わりは始めているところもある。北急の先にもいろんな事業地域があって、変わろうとしているところがあると思う。競争なのか協調なのかかわからないが、そのあたりも視野に入れ、議論を進めていく必要がある。

委員

- ・(今日の資料について) 全体的に違和感はないと感じている。今後、各項目についてどのような具体的な提案があるのか、聞かせていただきたい。方向性の4番目のタウンマネジメントについて、非常にいいことだと思うが、民間同士の協働、行政サイドとの協働が必要で、現実的には難しい面があり、今の段階では実現性に疑問がある。

委員

- ・現在、我々の店の中心の顧客は65~70歳ぐらい。町の人口は30~40歳代が増えてきているにもかかわらず、60歳代以上しか取り込めていない。今後の店の方向として、やはり30~40歳代を取り込んでいきたいということで、店のやり直しを進めているが、大きな課題が出てきている。一つは、60歳代以上の方々について、バリアフリーの問題があって、ちょっとしたものに躓いて転ぶことがある。救急車を呼ぶケースが月2回ぐらいある。
- ・それから30~40歳代の場合は、子育て中でバギーをひいているにもかかわらず、まちに階段が多いため、新しく売り場をつくったとしても、千里中央を選択肢の一つに数えてもらえるかどうか疑問だ。万博や箕面のヴィソラは、新しいまちなので、バギーを利用する世代の人達が選択肢の一つにするかもしれない。西宮ガーデンズは、周囲も含めて子育てにやさしいまちになっている。
- ・60~70歳代のお客さんは、若い時から千里阪急を利用し、すごく愛着を持っていただいている。30~40歳代のお客さんに、愛着を持っていただこうとすると、駐車場やインフラの問題の整理

が必要で、豊中市と連携をとりながらやらないと、投資はしたが、売り上げが上がらないということになる。千里阪急は、会社の中でも、ポテンシャルの高い、可能性があるということで期待され注目されている。インフラの問題の解決が重要で、この委員会で議論できればいいと思う。

委員

- ・まちづくりの方向性として、「人にやさしい」という視点が必要ではないか。西町の歩道橋の話が出ていますが、西町に住んでいたら、朝通勤したら帰るだけで、もう一回遊びに出ようとは思わない。子どもを連れていたらすごく大変だ。せっかく住宅がはりついて、センターを生かしきるような状況になっていない。
- ・商業施設との関係や駐輪場が少ないこと、女性が働き出した時に保育所があるか、子どもを預けやすくなっているかなど、まだまだ昔開発した時のままになっていて、人にやさしくないところがあると思う。そこを改善しないと、地区全体が魅力的になっていかないので、そういう柱の立て方をしてみてはどうか。店だけきれいにしてもお客さんがこないということになるので、方向性として入れた方がいいのではないか。

事務局

- ・回遊性の向上や交通利便性の向上というところに、「人にやさしい」という考え方は入れているつもりだが、わかりやすいテーマとして掲げるように考えたい。

委員長

- ・今方向性として書かれていることは、手段めいたことになっている。都市計画技術者としてはそうなるのかもしれないが、それを手段として、人が気分良くなるとか、快適に感じるとか、地価が上がるとか、そのようなことでまとめられないか。「人にやさしい」でいいのかどうかは議論していただきたい。

委員

- ・方向性について、我々として気になるのは、周辺環境の変化だ。北大阪急行の延伸や万博公園の土地利用、それからホテル単体としては国立循環器病センターの移転も大きな問題である。周辺環境の変化に向けて具体的にどのようなことをしていくのか、それが上に掲げられている4つに当たるのかと考えている。「人にやさしい」ということに主眼をおいて進めていけばいいと思う。

委員

- ・よみうり文化センターは、再整備事業にとりかかっている。回遊性の向上という面では、現在は施設周りにデッキがないが、再整備事業の中でデッキを整備していこうと考えている。我々のデッキをバリアフリー化し、広くしてベビーカーを押しながら歩けるようにしても、そこで止まってしまっただけでは意味がない。周辺にどう広がっていくのかが気になっている。
- ・配布資料の「まちづくりの方向性」にある「民間活力」という言葉は怖い。民間の負担増につながらないか。東町の事業者（地権者）の有志で1カ月に1回程度議論をしているが、我々の中の

キーワードの一つは「民間活力」ではなく「官民協働」。一方的にお互い求め合うのではなく、ともに頑張りましょうという意味だ。

- ・こういうビジョンを考える会ができて、(豊中市の)都市計画部門の方々が前向きになってきたのは喜ばしい。策定スケジュールにも明記された庁内調整は非常に大変だと思うが、民間の声を伝え、力強くあたっていただきたい。

委員

- ・1970年の大阪万博の時に、この地区で日本で一番最初に地域冷暖房をはじめ、以来43年間冷水温水を供給している。我々の問題としては、昨今、顧客が建替えの時期に直面しているが、地域冷暖房をそのまま継続して利用していただけるかということがある。東京方面の再開発では、地域冷暖房が新しく増えてきている。日本で最初に導入した地区でもあり、地域冷暖房は、景観の向上にもつながる。そういった方向性を踏まえて活性化ビジョンの策定をお願いしたい。

委員長

- ・国が低炭素まちづくりの法律をつくっている。地域冷暖房や太陽熱利用、太陽光発電など新しいエネルギーをめぐるまちづくりが盛んになっている。エネルギー関係からみた視点が方向性として考えられないかといったご指摘かと思う。

委員

- ・住友商事千里ビルの管理をやっている。ビルのテナントはデータセンターとコールセンターが多くを占めており、データセンターの従業員は男性の若い方が多く、コールセンターは若い女性から主婦層となっている。千里中央の東町、西町が活気づくことによって、お昼の時間帯が中心になるが、活用が生まれてくるだろう。
- ・東町と西町のアクセスが分断されていることについては、非常に強く感じている。新御堂筋の下のトンネルまでは幅が広くていいが、それからもっと西に行くと、高架になった歩道があり、西に行くほど高くなっており、かなりのスロープになっている。そこを、朝、住民の通勤の人たち、逆に会社に向かう人たち、それから船場箕面センター方面に行くバスに乗る人たちで、非常に混雑している。錯綜して、人が通れないような状況の中で、スロープを自転車で降りくる若い人がいて、非常に危険。
- ・東町と西町を結んでいる南側の歩道橋も雨ざらしになっているが、ここをもっと大きなものにするか、あるいはもう一か所歩道橋をかけることも含めて、東町と西町の行き来を考えていただくとよい。そして、人にやさしく、もっと安全性を考えることを、今回のまちづくりのビジョンの中に入れていただければと思う。

委員

- ・先ほど北大阪急行の千里中央駅のH23年度の乗降客数が86,700人とあったが、H24年度数字は87,800人/日で、約1,100人増えている。これについては、千里中央の駅勢圏の人口が増えているためと考えている。民間マンションの建替えや、新しく用途を変更してマンションになったこ

とが影響している。

- ・北大阪急行が北摂ブランドをどうしていくのかということだが、当社はデベロッパー機能がない。与えられたロケーション、良質な住宅地や新大阪に近いというようなところに恵まれており、交通事業者としては、できることをやっていくしかないと考えている。
- ・延伸については担当外で詳しくないが、昨年度から具体的な調査が始まっているし、その前から、関係者が集まっての検討会を行うなど、鋭意進めているところだ。箕面市のHPが一番詳しいのではないか。

委員

- ・千里中央地区は、阪急バスの中でも一番の乗降客数のターミナル、我々にとっても最重要な地域と認識している。私どもの立場だけで言うと、この地域に住宅が張りつくよりも、商業を活性化して、まちとしてももう少し魅力的になると、通勤や通学客に加えて、買い物などで我々を利用しただけ。そのことにより、さらにまちが活性化していけばいいと考えている。

委員

- ・千里センターがあったころには、千興会という商業部会の集まりがあり、千里の商業者と意見交換などをする場があったが、今はなくなっている。課題の中で取り上げられている、地区全体的な商業マネジメントの中で情報交換ができれば、我々もいろんな意見を聞く場となるのでありがたい。
- ・地区全体での防災活動の取り組みに関連して、最近、万一の際のリスクマネジメントに積極的に取り組んでいる。梅田で、以前、まち全体での防災活動・震災対応訓練などに取り組んでいたと思うので、そういうことをできるところから取り組んでいけたらと思う。その時には、我々から声をかけるのは難しいので、行政から声をかけていただけたら、出ていきやすい。

委員

- ・市民として参加している。新千里西町に40年ほど住んでいて、説明いただいた内容を身にしみている。現在コラボの実行委員会に入っていて、市民のみなさんの交流のお手伝いをしている。やはり、建替えと同時に、ソフト面の対応が非常に重要だと思う。コラボには、ボランティアの人が大勢来て市民活動を担っている。
- ・この地域に限るのではなく、この地域を利用する市民の人、箕面市や池田市の方々もコラボに来て活動しているが、そういう広い面でこの問題を考えるべき。

委員

- ・西町エリアで最近住宅化したマンションに、30歳代、40歳代の9歳以下の子どもがいる世帯として、流入してきた住民である。千里中央地区には、ほぼ毎日、2往復・3往復している。住民の立場としては、自分の住んでいるまちについて、名だたるみなさまのご検討の下で活性化について議論されていることは非常にありがたいことだと思う。
- ・「人にやさしい」まちづくりということで進めていただければ、住んでいる人はそこに集まる。

子育ての世代にも高齢者にもやさしいとなれば、3世代で集まれるとか、みんなが集まれる場所になると思うので、そういう観点でご検討の方よろしくお願ひしたい。

委員

- ・千里中央地区は、副都心ではなく新都心になって、吹田市域を含む千里ニュータウンの中心になっていかないといけない。千里中央地区の再整備に伴って、吹田市では、南千里・北千里に関するプロジェクトチームをつくり、豊中市と連携し、千里ニュータウンを盛り上げていこうということで、庁内で調整している。
- ・いろんなプロジェクトチームがあるが、それらを踏まえた中でまちづくりを一緒に進めさせていただきたらと考えている。吹田市としても豊中市のプロジェクトに全面的に協働していきたくて考えているので、よろしくお願ひしたい。

委員

- ・府営住宅や公社住宅の建替えて余剰地を処分し、マンションを供給して、人口増につながっており、千里ニュータウンの活性化に貢献できたのではないかと考えている。今日のお話にあるように、千里中央地区は、ニュータウンの中心というだけでなく、北大阪全体の中心である。また、そういう広域的な拠点だけではなくて、お近くにお住まいの方々の利便性向上も視野に入れた活性化を進めていく。これはその通りだと思う。
- ・千里ニュータウン全体の再生ビジョンをつくって5年が経過し、昨年度、取り組み項目ごとにビジョンの点検・評価を行った。20の項目があり、大半は一定進捗していたが、ニュータウンの再生を進めるための組織や事業をしていく際の基金というところ、財源的な裏付けをきちんと議論していくべきだということについては、あまり進んでいないということだった。
- ・今回は、千里ニュータウン全体ではなく、千里中央地区という限られたエリアを対象にしていくが、今日の議論の中で出てきているように、バリアフリー化など人にやさしいまちを作ることや、交通問題への対応・公共交通の再編など、やはり、ハード面で投資をしていかないといけない面は当然出てくる。
- ・そういう時に、民間だけにあまり期待されるのは困るという話があった。公共で主導的に整備する部分と、個々の施設の中のバリアフリーなど各地権者の方で投資をしていただく部分に加え、デッキのような半公共的公益的部分の整備があり、地区全体・地権者全体で整備を進めていく仕組みが必要ではないか。知事がアメリカに出張し、B I Dのシステムが非常に良かったとの感想を持っている。公共施設整備を進めていく際の公民の役割や、民とのコラボレーションについて、具体的な促進策としてぜひ議論していただきたい。

委員長

- ・本日の会議で、概ね方向性については議論、情報共有ができたのではないかと。引き続き事務局にはこの議論を受け、活性化ビジョンの骨子の作成に入っていただきたい。

●案件（５）その他

- ・次回、第２回策定委員会は、９月１３日（金）午後２時より、会場は千里文化センター（コラボ）第１講座室にて開催予定。

－以上－